

飯能の里山資源を活用した
アウトドア・スポーツ・ツーリズムへの挑戦

飯能市原市場地区 駿河台大学

1 活動目的

里山資源を活用した「体験」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進め、ひいては原市場・名栗をアウトドア・スポーツ・ツーリズムの聖地にする！こと。

2 活動地域の現状

山、川、湖などの多様な自然が楽しめる飯能。これまでの飯能では、エコツーリズムでの地域資源活用が多くみられ、全国的に注目を集めてきた。コロナ禍以降、キャンプへの関心が高まり、飯能の自然資源を活用した活動が増えつつある。VUCAの時代と呼ばれる昨今、健康志向、体験志向が高まっている。しかし一方で健康を構築する「スポーツ」を意識した取り組みは多くはない。そこで、本学のスポーツ科学部の学生たちが主体となり、これらの里山資源を活用した「体験」「健康」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進めていきたいと考えている。

3 活動内容

- ・プチサバイバルキャンプの安定的運営に向けたロードマップ作り
- ・地域資源の活用とその産業化の実現
- ・新たなアウトドア・スポーツ・ツーリズムの企画

4 成果

1) はじめてのプチサバイバル

飯能市エコツーリズム推進協議会が発行する「飯能エコツアー」のプログラムとしてエコツアー「はじめてのプチサバイバル」を地元の一般社団法人里山こらぼと連携して実施の方向で計画していたが、担当教員の病気療養により、昨年まで構築してきた手法での一般募集のプチサバイバルキャンプは中止となってしまった。

2) お散歩マーケット

春と秋に実施されたお散歩マーケットへスタッフ参加した。当日のほか、一週間前に行われた山道の整備も地元の方々と一緒に行った。10年以上継続して協働しており、地域の学生たちへの信頼度は高いものとなっている。

春のお散歩マーケットスタッフ参加と鹿バーガーとセムラの販売、秋はシカの焼肉と地元のサツマイモのベニアズマを餡にしたタイ焼きの販売を行い、すべて完売した。

3) 入間漁協とブラックバス駆除

地元の入間漁協と一緒にブラックバス駆除をした。気温が高く、駆除数は少なかった。

4) 西川材ツアーへ向けた視察

地元が誇る銘木、西川材が流れた道をつアーにしたい、と思い、この企画がスタートした。西川材は名栗地区から飯能、川越を経て木場へと材を筏にして、運んでいました。名栗から飯能までは現在水位が低く、ボートでは下れないため、今年度はリバートレッキングを行った。

5) Nanacafe オープン

2025年6月7日に学内にグランドオープンした。地元との連携を強く意識したカフェで、農家さんや飲食店などと積極的にコラボレーションしている。

5 課題

- ①野生鳥獣：6次産業化へ向けて動き出したものの、衛生面などクリアすべき課題が多い。しっかりと知識をつけて、動かしたい。
- ②この地域「ならでは、でしか」のプログラムをつくる：地域資源を活用しつつ、どのように磨きをかけていくかが課題。
- ③地域の方と協働する機会を増やす：さらに地域と積極的にかかわりを持つべき。

6 次年度以降の計画

- ① アウトドア・スポーツ・ツーリズムの企画・運営
今年度十分に準備ができなかったので、来年度は再調整をしつつ、実施へ向けて動く。
- ② 地域産品を活用した健康に良いプロダクトの開発
カフェがオープンしたものの、収支バランスが悪いので、地域農産品を意識したプロダクトを地域団体と一緒に作成していく。

画像

